


ことしはうまどし

はにゆうしりつとしょかん


「スーホの白い馬 モンゴル民話」
大塚 勇三/再話 福音館書店 E/ス

まず貧しいけれど働きの羊飼いの少年スーホ。草原で拾った白い子馬を一生懸命に育てるのだが…。少年と馬との悲しくも美しい民話。




「たまごからうま ベンガルの民話」
酒井 公子/再話 偕成社 E/タ

ある日、男が市場へうまを買いにいきました。ところが、お金が足りなくてかわりに馬のたまごを買いました。さて、そのたまごから、かえたのは…?




「たびはみちづれ ウマ年のひとのえほん 絵本」五味 太郎/作 クレヨンハウス E/エ

「たびのきほんは、ひとりたび」「でも、ま、みちづれもいいものです」というわけで、ウマさんといろんな動物たちが楽しい旅をくりひろげます。




「この世でいちばんすばらしい馬」
チェン ジャンホン/作 徳間書店 E/コ

幼いころから絵の修業にはげみ、宮廷の絵師となった青年と、青年の絵から生まれて戦場を駆け、いくさの真実を目にしたふしぎな馬の、心ゆさぶる絵本。




「ぶどう畑のアオさん」
馬場のぼる/文 こぐま社 E/ブ

夢で見た丘の上のぶどう畑。アオさんが行ってみると、なんと本当にあったのです。「みんなにないしょにしよう」と言うネコさんに…。




「サーカスのしろいうま」
石津 ちひろ/作 小学館 E/サ

家族を失い、サーカス団に引きとられたミハエルは、玉乗りもできません。そんな彼に団長は、白い馬に芸を仕込めばふたりでサーカスに出してやると言い…。




「おっかなびっくりしまうまくん」
マリオ ラモ/作 セーラー出版 E/オ

真夜中、ひとりだけでかけるしまうまくん。みんながびっくりするものだから、調子によって大胆に。しまうまくん、大丈夫かな？



「うまさんうまとび」
水野 翠/さく 小峰書店 E/ウ

うまが馬跳びをしたり、ぶたがダンス、ぞうはおそうじ、ねこは？ かばは？ いろいろな動物が、その動物に合った遊びや仕事をします。言葉遊びにもなる、楽しい絵本。




「ウマソウのピョンピョンピョーン」
みやにし たつや/作 ポプラ社 E/ウ

アンキロサウルスの赤ちゃんのウマソウ、トコトコトコ歩きます。あれれ、走りだしたよ、ダダダダ…。木にぶつかって、ドッシーン！




「ウマと話すための7つのひみつ」
河田 棧/文と絵 偕成社 E/ウ

ウマと話すことができたなら？ よなぐにじま 与那国島でウマを相棒に暮らす著者が発見した、ウマと話すための7つの秘密を伝えます。




「わらってよピッコ」
ルイス スロボドキン/さく 福音館書店 E/ワ

公園で、カートに子どもをのせてさんぼするポニーのピッコは、なぜかいつもかなしそう。アルフレッドとジーナの兄妹は、ピッコが楽しくなるよう、思いつくかぎりのことをためてみますが…。




「こうまのマハバット」
市川 里美/作 BL出版 E/コ

ジャミーラはキルギスの村にすむ女の子。この夏初めて、山で過ごすことに。山についた次の日の朝、足にけがをしたこうまがいた。ジャミーラはできるだけのことをしてあげたいと思い…。



「チャーリー、こっちだよ」
キャレン レヴィス/さく BL出版 E/チ

「だれでもほくじょう」は、心や体に傷をおった動物たちが、安心して暮らせる家です。目がよく見えないウマのチャーリー。いつもひとりであるヤギのジャック。そんなふたりに交流が生まれ…。



「うまはかける」
内田 麟太郎/文 文溪堂 E/ウ

おおかみが、かける。おおかみにおわれた、うまもかける。かけにかけて…。さあ、どうなる?! ナンセンスなことばあそびの繰り返しなが、どんどん大きな話に。絵も楽しい、ユーモア絵本。

